



新たな一步を

埼玉県中学校長会 会長 原口 穰

令和7年度埼玉県中学校長会の活動が、研究主題『『豊かな人生を切り拓き、持続可能な社会を創る担い手』を育てる中学校教育』のもと、各地区中学校長会をはじめ関係者の皆様方の御尽力と御協力によりスタートしたことに深く感謝申し上げます。

今年は戦後80年を迎える中、各地で起こる紛争や自国第一主義による不安定な世界情勢、また国内の政治・経済の状況も変動が激しく、不確実で、様々な要素が複雑に絡み合い、何が正しいかが曖昧な、まさに「VUCA」の時代真っ只中を感じる日々です。

これまでにない米価の高騰や体温を超える気温の上昇、急速な少子高齢化に伴う人材不足など10年、20年先ではなく、数年後でさえも「どのような社会になっているのか」予測困難な時代を迎えています。

そうした中、学校教育も大きな変革期を迎えています。

教職員の働き方改革の更なる推進、GIGA スクール構想のもと一気に進んだデジタル化、不登校児童生徒の大幅な増加、中学校の部活動における地域展開、特別な教育的支援や日本語指導を必要とする生徒の増加、いじめの問題をはじめ SNS を利用した問題行動等、学校教育に課せられた解決すべき課題は山積しています。

こうした困難な時代のせいでしょうか。教職員を志願する人材が減少しています。しかし、教育は、いつの時代にあっても国づくりの根本であり、子供の成長を間近に感じられる夢のある仕事です。

私共の多くの諸先輩方が、額に汗し、また時には涙をぬぐいながら築いてきたこれまでの日本の学校教育が果たしてきた役割を継承しつつ、変化を前向きに受け止め、令和の日本型教育の構築に向けて、学校教育を支えてきた全ての関係者が力を合わせ、未来を担う子供達に、自ら課題を発見し解決する力や、多様な価値観を持つ人々と協働しながら新たな価値を創造する力を育むことが期待されています。

まさしく今、中学校教育は、社会や子供たちから「学校での学びを、いかにして子供たちの将来の生き方につなげていくのか」という大きな問いを投げかけられています。

令和6年度に策定された第4期埼玉県教育振興基本計画では、第3期基本理念「豊かな学びで 未来を拓く埼玉教育」が継承され、生涯を通じた多様で深い学びによって、人生や社会を切り拓く力を育むことを目指し、「誰一人取り残さない共生社会の実現に向けた教育の推進」、「教育デジタルトランスフォーメーション(DX)の推進」の2つの視点が示されました。誰もが互いを尊重して生きる共存社会の実現とデジタル技術の活用を進め、これまでの実践と ICT を最適に組み合わせることで教育の質と効果を高めることが強く求められています。この基本計画に示された施策の実現に向け、校長のリーダーシップの下、教職員一人一人がその専門性を発揮し、チーム一丸となって取り組んでいかなければなりません。

このような中で、私たち中学校長は、日々の研鑽や中学校長会における研究をもとに、変化する時代を的確に捉え、不易と流行を踏まえながら、中・長期的視点に立った取組を行っていかなければなりません。前述したように現在、校長として抱える課題は多岐にわたり、複雑化・多様化する状況にあります。このような状況だからこそ、会員相互が深くつながり、個々の持つ悩みを共に考え、情報を共有し、知恵を出し合い、実務に即した校長会となるよう尽力していくことが必要と考えます。70有余年前の本会発足当時の諸先輩方の志を継承しつつ、令和の学校教育における数多の課題に挑戦すべく、新たな一步を強く踏み出す組織となりますように、今後も皆様の御理解・御協力をよろしくお願いします。